十二月句合

初雪や蟹の死骸を見ふ　文耕
初雪や信濃も有〳〵よ　ちゑ
行く末も雪見そふ弟ぢ　シボミ　ろ月
雪つゝふ雪ちや雪分や　センタイ　麻伸
初雪の富士よりや　ひの〳〵山　ニノ　由カ里
初雪に天津乙女も　稲ぢむら　操　根荻
雪つゝや いさりの月の　鑵　松　ヒサカリヤ　車来
初雪〳〵小僧子のちろき　屑家乳　クルリ　総人
初雪や分みるる書の　下モ板東　ニノ　卯山
雪つゝの雪のうけや小松の　屋　カスマ　浅上
水わひて初雪見ふりみそ　ける　まゆミ
四尺帰ル喰つゝ　ひ　ル　武ヨシヒ　鳥光
人の学ぶ乳　喰ふ　ふ　ぬ　ま　ら　来杉　良貞
喰つゝもおくりつゝ　ふ　の　松　吉　江戸
喰ふ〳〵もおきく人　ふ　ち　小方丈　瓢箪
喰ふ〳〵もちや老多形　徒　客　天橋
初雪をのせて牡丹も　古賀の松　卓老
雪　雄今

雪

枯野りや〳〵日のさし坂の一言　老木戸　其砂
連のよりをふをを〳〵　ぬか形　沖汐　杉吉
指し北子書こいやしき　根笹作　川中子　玉石
雪や有く水の視　有　く　ふと　こちハフ　三有
雪の元月の雪こふかし師乳　今

○

喰ふ〳〵毎
ものをうりや屋敷守　撰者　金今舎

天雄（ナテ）今　地根荻　人麻佛

四月句合

玉坂　おるまち
梅の花に茶心暗し　佐庫喜樣

柏尾　カヤ田
梅の枝を大るお家哉　一松

菩系　仙堂
水鮮て皆々ものゝ　枯蓮　雅郎

汐波
梅の蕾ほ手ものゝ　ものゝ

雅郎
猫好母多ゝ　みゝも鮮る秋哉

一得
鶯のまゝ行ゝ　みゝ舟

法道
梅ほ手霞を　一舟尾

ドモカヌマ　改と
古利根の花を　今や水鮮く

赤ち
梅を行るに　折柴ハ行ゝ

天元
足ち　水の鮮る音

トチ木
梅や根ほ　ものゝ小鶯ゝ

ゝ鶯る
陣中　鮮る水の　ものも見えて

ゝ
梅ゝ花ものゝ　ゝ梅ゝ

アクツ　色ゝ
猫陣ほ　ゝる手母

ニヲ
不二事中　水の鮮ほ日ゝ

足利　鳳舎
近江路へゝ　ゝ畫ハ　ゝ代

上ナカリヤ　車来
羅のゝ　ゝて水の鮮ゝ　ゝ

上ヌチキノミヤ　ゝ連
梅や　ゝ　ゝ

セラ田　志塩
野ゝ　ゝ　ゝ水鮮ゝ

羽生　志ゝり
水鮮ゝ　ゝ田ゝ

武八王子　如白
鮮ゝ　ゝ水ほ　麦ほ

来都　都象
梅や　ゝ水鮮ほ

鶴傘
水鮮る　ゝ梅や備社の　ゝの枝ゝ隅ゝ

蓼晴
梅ハ月　ゝ梅ハ　天樽

荷乙
梅の　ゝ　ゝ

卓老
梅や　ゝ　ゝ

水ゝ　ゝ　ゝ

須ゝ古ゝ障ゝ子　判者　金谷舎
日ほ　ゝ　ゝ

天十四、　卓老　地十二、　天橋　人十一、　蓼晴

二月 句合

霧の元の海伝ひ小くゝ　蜆汁　おなぎ木　玉柳

逃るもわけてもけ出れ何し紙、

わ笹はまふくしの居り雲也　祝汁、

山伏の衣月みつゝ焼れかゝり、　英ノ　九皐　祥雲

傘法の縄たゝまれ焼れ、　夏木　芝ゝ

ゆきくしも出稽の居りも焼れ也ー、　トハカ　丹仙

伽ゆきそ居ふそ也けれ村境、　文耕

やくしゝ焼れの海もわる鳥　センタイ　雑鈍

浦人や蜆のせ也ふ風もし、ふ、　ゆ春

ゆれ月くこの川のあふふもみの焼ぬ、　一得

はしゝ也日くせのやくふ也ふ、　古道

ゆくゝろ也ふゝつ西もの明れ不二　上井一宮　梶素

浦ゆれぬ子を紙もこゝろふる蜆　下モ野ノ宮　素湍

桶の蜆肉芸の留ゝ見れおき用之、　ヤ多　急ゆ

ゆくも初ゝ結焼れのきれゝし、　カヌマ　北情

移の中れゝしゆめくさよれの焼る、　栃木　初ゝ山

浦の居祝ゝてもくゝさ紙ゝ、　かはふ

祝つゝれ居きゝ焼ゝれのほゝ、　アシカ、　甚一

焼ゝれのゝゝゝけてもり元帆　上毛田中　巧唱

居ゝる紙ゝ居ゝれ居ゝみ汁、　サカイ　筆家

猿の書ゝえてさひゝ焼れ系　武州セキ　鳥光

ひょゝゝゝゝゝの面ゝ焼れ　武大豆ア　一歩

山里も蒲ゝゝゝも焼れゝ、　坂ア　素白

れゝれ也けゝゝの地蔵の也稽ま也、　江ア　瓢傘

醤油の中も巣つくゝる焼れ系、　天拾

天系も焼ゝゝつて焼ゝ系、　阜老

居ゝふ紙波ゝふ日も也ゝ焼る、　叶馬

彩くま

ゆ稽ゝ稽のゝれる日和ゝ野　上サクルリ　ゆ矢畑

水解てゝれゝゝ家ゝつ田かゝ系　常ゝ野　読九

ゆ稽れるゝゆゝ咲也蒲の戸　閑雑

○

苗代の歌ゝ　郭水　親のまゝ　刻者　金今舎

天　玉所　地　阜　人　瓢傘

三月句合

あさきこに出て住あまり燕子花　和厚木　九皐
海棠や酒を嗅ぬ留主居気、　蕙然
るくさ川の僧を思ひ遣し雲雀時、上表　不の得
海棠や桜よいかぬ鳥の朝ろ、柳尾　従周
眠けなる鶏の目さしや海棠咲、トツカ　森仙
海棠や油ぶらしき夜泊の町　仙台　根萩
錦まとあるてふ色や叶燕子、　こさほ
大男燕子花寝よ　返事かね、　節高
海棠や俳名あれて野ふ樵乃院　下毛藤沢　其日之
うこめくと蛙ゐなかの燕子花、宇津宮　原水
海棠咲といひてしも村傷まさくし　、
海棠に似気梅ゆきし浄息馬、栃木　かなつる
海棠や庫裏は日暮し櫨の音、　淡義
短檠ふひしを来るよ蚕や山、　わか山
燕子花や茶花かの紗を蚕の箱、　右膳
のへ椿の森庵よるや蚕の右、　閑村
海棠やるくしろむらの日記、足利　其一
山門や燕子花を野に泊り　下野芳井　竹翠
庵の内を相麻と燕子に踏出し　、
燕の直れよるや杉を蛙燕子　上毛仲枝　雲秀
との鳥を隣まろきし燕子時、相生　志げり
旅の秋や夏て燕子の青瀑さ　江戸　里雪
海棠の咲そへたるや小方丈、　貞居
あさ海棠の白ひとはいむら蚕の時、　松雫
むつまじや燕子ふせる燕路、　明良
海棠を盃にしするかゞの尾長寿、　鷹之

おくも

ひとしきり曉雲雨の灰汁はき　武桑郡　良貞

○

當庵の杉も　書せんかな句々　判者　金令舎

天十二て　其一　地十て　根萩　人十　明良

四月句合

[illegible]くらく　相模　雲阿
[illegible]切迫　戸塚　乃月
[illegible]　豊島　一昨
[illegible]　武蔵　夫畑
[illegible]　仙台　整麦
[illegible]　常陸　雅妙
[illegible]　下毛野　松う
[illegible]　武蔵　志明
[illegible]　常陸　三有

撰者　金令

天　十二　昭良　地　[illegible]　人　十二　[illegible]

五月白合

徒舟もまくうらぬ頼中粽く　相書　都雀
ちとうきの解てうくうる粽哉、トウカ　壹風
雪のあぬ火、捕も鐵ぬうち、　春仙
淺菊や雪ひとと老を呼、　左義　紀石
雪もふり渡て青ハへりうの、黄蔵　沙汰
隔れあも粽ハいみの白の青、矢畑　一脂
粽作人藤や森ふ手の手　桃　仙堂　吉良
解きやうの客うう見ゆる粽哉、　徒象
雪雪のほそ方も時一るれ、　根義
雪と色ほしあつ　奥吉壁、　一得
雪のふ深くはう　ほ　呼ナ、　松う
雪を色む小著作ふ手粽屑、　扇風
雪ふ色ぬ樊沙へ　こ来る人　下毛賀茶　演萩
不来おおうなうう　姫粽、　白鼠
雪ふ色ぬふの婦のかれ　武蔵　三男
雪のおりうさてもくうる山、　長菊　わう子
雪雪ち用う胸ムつうへ　るう　上毛中枝　露鶴
琴九ふ細りし　指や一　粽とく、　セ五日　志泥
雪のおてちりう　勝の青　武今宿　楽山
雪の指のう清れ　を婦、　彩戒　桂青
うるいしのやくさる蕎る粽却、　乎川　一寿
夕虹や雪ほを婦くれ、　郁とふ
作ふうと解ふりう　茅の白を　江戸　赤川
雪ふ色ぬの森やさくう、　光人
浮神るる粽いふ　嘶ふ青、　丁橋
国ふや雪ふ色を　婦くう、　四良
膝ふくう色白の雪や粽く、　仲馬
粽ふ世ふて巻ふ　ちや光日、　意く

○

石ふつんて古き　判者
樓月つ　五月山　金舎
天さて指　地さて汲汲　人、新芽

六月句合

むね雲や吉田の中の七小社 、相摸厚木 玉阿
起くれは吉田なら眼に老ならぬ 、 薫蛾
菜摘の人うらめかす扇の哥 、トツカ 志鳳
うごくもの扇斗や後箋の庭 仙台 松う
松風も扇かさして 扇哉 、 星徳
梅まち待や吉田の 鶏流け 、 根萩
雲風の多くれ和の吉田の峰 、 [illegible] 雨柳
山寺は温泉の[illegible]吉田哉 、 雅儀
流れ柳しまる柳しかれ吉田 、 古道
二白打て世は古さかる扇の風 、 向川
引結て子の涼しさうる扇哉 、 上州上ノ 東素
和らかく仰くまかて扇夷 、刈谷 雁乾
角田の取も見ものしらぬ扇の事 、下毛粟木 雨月
うかと人の月ありまでて扇哉 、 但ら山
寛孫は聡まりしまう扇の事 、 まゆこ
涼を掛ひ入て一扇の通の小路 、足利 うかゞ
吉田見も拝は[illegible]扇より 、 菁作
わりなくて子は[illegible]の扇哉 、松田 氣水
まつとおや吉田名よ風は古更 、何久保 竜岡
世は高と扇を授らぬ人もなき 、上毛大間々 満雅
隣まてこ吉田見ても むかし都哉 、 桃路
待らけは扇の露ゆるさく かり 、相生 桃重
日和また扇すゞ 又そろ吉田哉 、 鳥光
浴しても吉田風ふむ 門田哉 、武州飯 [illegible]
蓮葉の露は光雅あし 清扇 、高セヤ 酔蔚
笠井しみく こ名のとふす吉田哉 、江戸 桂蒲
鳥羽よの 籬の吉田や森の暗 、 守風
山寺谷の中もりむしつゝ扇哉 、 利郷
あつけの夏ひを隠す扇の風 、 光人
六朝恵の燈ちは まむ吉田哉 、 白魚
つかむ子の光明あし引く扇哉 、 月雄
扇うち涼田の 白日打てるうち 、

ゆくれ

輪らく風情涼めり小衛也 、下毛字都宮 まちもら
法の輪めてらて螢の手くあ 、 保之
螢としおかり作りし寛うなあて 、上毛角上 玉秀

○

暑の年一のまつさかや 山川き 蝉流る 撰者 金令

天 十二て 光人 地 十二て 根萩 人 玉阿

七月句合

清流に遊ぶ柳の群れ　相模　玉阿

風一人屋濱の松の名ある柳　萩野　雲舎

夏ふかし屋濱の松の名ある柳　萩野　義年

遊ぶうまおいく果てやちる柳　忠輔

蕎の世の伝ふやうやうの秋　萩野　石月

にくくしの日の出角力の取組　菅原　里暁

ぬる雨にまくるやちる柳　矢畑　一慥

ちるもいとおしむむちる柳　仙堂　芭蕉

夏の戸れひまあけるちる柳　根萩

庶の夏ゆゆて飛ぶうの扇　操

冥土の伝ふまれ釈迦まれる　星德

野濱や一艘に皆角力取　星國

角力をもしるのちいさな花屋敷　星壽

夕風や何のさりのちる柳　桃里

山陵の夏ゆるるやちる柳　近江　慶雪

秋の夏を吹さうなるやちる柳　常イタヤ　仙雅

かしりさりてれや時角力　下毛栃木　かるう

作ぶきうふやちる柳　濱萩

十間の夏のるもゆくちる柳　鹿沼　月

国夏の捨すやうちる柳　小雪

柳ちるや大根幸き細振　宇都宮　糸山

敷て接角の実の柳　氏家　市水

月ありて柳の柳　上総　白川

蓋塚しるの乱もすぐる柳　山田　子雀

再性を艇ひくくちる柳　江戸　其月

投ぐるとて走ぐれていいるの夏子角力

さきくくの名を敷ぐるの弱角力　白魚

涼しさに柳ハ時ちる柳　鴉山

柳敷て粉しつれ夏ちる柳　阜老

簾もの暮れて藤ぐる角力元　竹馬

おくれ

間の行もえちぬ夏日の

るの戸れ角よつくやるの鄙れ　相萩野　摂堂

結見し角抜りりの夏ちる　下毛栃木　素考

常陸　三遊

○

遠方や一番立　撰者　金舎

ちけても見えぬ影

天　十二度原水　地　十一、怪　人　帥斉

八月白合

むていめ[illegible]つ領うう萩の露　相アキ
[illegible]　玉河
[illegible]　トワカ　喜三
大根の[illegible]　蓼　草木　仙蓬　起石
[illegible]　沙汲
[illegible]　古道
[illegible]　根萩
[illegible]　寛抑
[illegible]　原沙
[illegible]　荳城　翁風
[illegible]　可蔦
[illegible]　星毒
[illegible]　星国
[illegible]　濱萩
[illegible]　閑月
[illegible]

[illegible]　下毛布木
[illegible]　上ノ々
[illegible]　下ヤ茅井
[illegible]　武州戒
[illegible]　村茶
[illegible]　江戸
[illegible]　下毛ヨ久津
[illegible]　兎水
[illegible]　江戸　赤川
[illegible]　角力

再考

古仏の面とろんろん　千本桜刈　卓老

○

[illegible]　紙波郡　撰者　金令

天十七点　草表　地十四、三点保　人　雲抑

両評句合

玉光評

梅か香にまきれて鳴し蛙かな　江戸 文暁

持か来て見れハありゝし乃かる、　瓢傘

如くとはと声なるも初とも蛙　西雲

あらそ(?)梅のかなくや雪の花　加旅

かの鳴も月れ出てあり蛙　田竜

雨ふしとちぬて鳴り半車　武熊谷 也好

呼ふ声の梅乃も乃也佛乃あま　九佳

蛙鳴けてらも陽田乃声とまし　素白

あま(?)月なく乃腹も苦まあるし　嵐二

岩にもりせ声しに斗乃香　桃水

湖水も見れ竹の中なる聞　村多

石組乃行く(?)白い乃芽め乃花　蓼暁

人の香あるまへ海ある梅　雪也

舞乃香らしき小田る〆さし　有笑

鳴佛も耳乃坂にれ鳴　甘さ丸

隣る乃流たに加する舞乃香　雪虎

鯨さて〆る日も乃鳴く声の香　貞屋

あ鳴やに門たに出る蛙の声　貞当

鳴声も蛙るも見る〆し乃洲に　其由

あくるまて日もの小雨や鳴りかへ、

義乃梅そ〆く日て住る竹

田永や蛙に声ると比やし〆、

鳴るほと耳に

乃し〆ぬうゝかるゝ　桃老 玉光

天 世好 地 文暁 人 瓢傘

兼合評

山伏乃新治し〆乃声　上毛桐生 青写

浦(?)崩の小ゆき田し〆乃梅　武奈良 其舎

いつも声を志める絹　江戸 天指

寒夜の声も鞭をやとのけれ、　卓光

わよ(?)く日を月も〆の出る　下毛栃木 久つ

舞の香る乃中し〆し茶の白ひ、　鹿沼 素堂

あ鳴や春のよりわけ小雨の　栃木 宝月

行く舞もよぬいの斗の雨　武矢畑 田竜

梅乃声の住る日のなる蛙　仙台 蛙明

咲まれ〆大き声ある〆　武熊谷 呂律

居るより大き声る〆　仙台 岩高

咎ある梅不調はかる住む〆　武坂戸 素白

雨の声るし人もよりはしの声、　入間 和水

吠るし〆の山田の夕る〆　大宮 千山

山に向てくのりゝの蛙　仙台 乃柳

打ち〆月を住まいて鳴く〆　下総 萬紅

蛙鳴る日も〆鳴る乃山　武金子 夕鳥

あ(?)さ日小の小雨の　下毛飯田 士直

精(?)等の日の小(?)蛙　江戸 月尾

あかく鳥(?)の川の〆　武青梅 不拾

打つの腹はますけハせ先　大塚 持漢

雨白しのしまありの蛙　八王子 羽蘭

打ち乃花るまるゝ乃川　武太田 九皐

葉の声もての梅の鳴りに　江戸 篁洲

ほとりて梅なる日の声、　下総 菜風

加茂川乃あまも舞を乃声　下野 耕斎

あまりて声もちるの
　のうく蛙　桃老 全合

天 十九 素〆　地 十七 全合　人 和水

閏八月句合

肌寒や米磨く外のとく〳〵音　相ヲギ　九皐
ころけてさし鶏ゆてすむを菌狩　、トワカ　舟仙
肌寒し黄楊の小櫛の温泉に浮て　仙臺　橾
肌寒や枯木の蔦の末の月　、　一得
肌寒からぬ〳〵の夢の夜や稼る　、　金風
肌寒や夜庭に出き炙の胃　、　良成
ちかし押に行くひらく志め郎　、　古道
松茸の識きのみはむしり者　、　と春
月寒し棲て亦の子をいみ山を　、　節ゟ
肌寒き妻や禿を喚ぶろ　、
風呂舟の火ちけ入みけ肌寒し　、
肌寒や水鳥も持る鶏志のみ　、　甚雄
稲負の声もうせし肌寒き　、想　梅昔
芋畑の隣もなきを小松茸　、　忠兮
肌寒しなりや木の宮の忘れ草　尾張　国竺
十露盤をさすり緑や菌売　常陸　万磨
二ツ三ツ持てあるし菌売　、　蒔秋
稲刈の地震に雛子鳴　肌寒き　、　眠花
肌寒やひとりて寝る夜の古や　永戸　りを
つく案の枠さし川むや肌寒き　下毛梨　雨月
肌寒や弁当の菜をたに笠の色を　、　演萩
茸狩は足肉ちからまれ先　紅葉　、　知る山
すりこる休に藤掛肌寒き　、　ありつ不
肩籠て鳴子の音や肌寒し　、磨　兆幡
こうもりは肌寒きる菜切虫　、宇津宮　示ち
肌寒や焼に鶏の火　、杏田　芳竹
浄とけて癒しぬ秋の寒さ取　下井岡若　炙閑
肌寒の稲ふるう伊豆傑風　上毛沼工　玉游
板の間に味噌する音や肌寒き　、中枝　皆秀
余あり黒茸ともの足尾山　、大宮　竜岡
赤猿の漆かきうや木の子汁　武熊谷　呂律
菌ほして狭み家中ちら山の音　、坂戸　素白
帆車を呼ふれ崩や肌寒き　江戸　力瑞
崩るや貧家の社の肌寒き　、　其月
肌寒や人知らぬ居ぬ硫黄小舟　、　楽只
肌寒し弔の咲き葉茶ともす　、　不厄
藤風呂の嘶咲るり肌寒き　、　瓢傘
肌寒や灯をも小くりき霞溪臺　、　天橋
琢磨山に出あるみて名ある小挺志めし
をくれ　、　碓令
白粉のなきいりのを肩の霧　常府中　其流
宵からも流うて作うて末の露　上毛七日市　志塊

○

道哲の寺も稲ほと躬に鳴

撰者　金令

天　十二点　ミさ保

地　仝　舟仙

人　十一　砂一坴

九月句合

捨子ぬらし石臭(?)……汐(?)ぬめ(?)こ版　相華木　玉阿
[illegible]……ぬめこ　九阜
蟷螂の斧[illegible]……ろ足　春翠
蟷螂の[illegible]……据(?)られん　トロオ　乃月
[illegible]……蔓(?)ぬらこ　蟹風
[illegible]……蔓(?)　左佐(?)　起石
[illegible]……蟷螂(?)駅(?)　仙巷　根蕨
蟷螂[illegible]……かせん　三僊
[illegible]……琴の上　尾好
町尾(?)や蟷螂[illegible]……のまん　哥風
[illegible]……太刀(?)持(?)　宗鈞
ぬらこ[illegible]……鵜(?)の事　可春
大黒の棚[illegible]……ぬらこ版　蛙会
[illegible]……ぬらこ風　こさね

二ツ

秋寂[illegible]……ぬらこ　象民
[illegible]……捨子[illegible]……ころ　金風
[illegible]……ぬらこ[illegible]……時　星徳
小便(?)[illegible]……ぬらこ[illegible]　月如
[illegible]……菴(?)ぬらこ垣　松乃
捨[illegible]……ぬらこ[illegible]……風　蕉鳥

二ツ

草[illegible]……ぬらこ芭(?)　萩水
白[illegible]……ぬらこ版　徒風
[illegible]……ぬらこ風　許山
[illegible]……ぬらこ版　下毛栃木　夜竹
干瓢の棚[illegible]……ぬらこ蔓　康沼(?)　哺(?)橋
蟷螂の[illegible]……何(?)か[illegible]　雪乃
[illegible]……ぬらこ風　宇都宮　車楽
蟷螂や[illegible]……ぬらこ風　上刈谷(?)　仙雅
[illegible]……ぬらこ風　下サイタマ　遠秒
[illegible]……ぬらこ汁　上毛桐生(?)　寿楊
[illegible]……ぬらこ粒　中枝　擺蝶
麻[illegible]……ぬらこ[illegible]　サカイ　五猩
雨二日[illegible]……ぬらこ[illegible]　武州成(?)　越谷　呂律
蟷螂の[illegible]……川(?)[illegible]　坂戸　素白
傘[illegible]……ぬらこ[illegible]　宇内(?)　半哉
蟷螂の[illegible]……や[illegible]　都子
[illegible]……ぬらこ[illegible]　江戸　良貞
[illegible]……ぬらこ[illegible]　清之
蟷螂の[illegible]……[illegible]　虚舟
捨子ぬらこ人の畑のゆめ[illegible]　笑語
[illegible]……ぬらこ[illegible]……親(?)のまつ(?)　了橋
ぬらこ[illegible]……の秋　阜老
[illegible]……ぬらこ風　倍山
[illegible]……[illegible]　竹馬
蟷螂[illegible]……[illegible]

○

[illegible]……秋
通ても[illegible]　撰者　余令

天 十三 こさね　地、尾好　人、若水

十月白合

相模国
寿塋
九年
松井
徒因
仙タイ
根萩
ほさと
松可
みな
常李
三去
芝水
亀氏
芦秋
二
星封
曼徳
伊山
下毛栃木
宗月
ふる
平山
麻沼
北徳
ウウ宮
緑く
松田
芳岬
アクツ
魚水
上毛ハカ
九在
サカイ
宮竜
上サ刈谷
車来
水戸
玉仙
火小田
壺仙
武之谷
甲二
ラ
栃子
長林
坂戸
素白
宇川
十良
三三三
芙川
中郡里
反秀
かた
堂休
江戸
竹ラ
郡傘
根舟
寺老
弓民

石落乃花
細代母者〳〵まぬくせう用ふけ石蔵
菊にあきをあも用ふけ石蔵
花の少乃ふさと芝ふ乱細代ま
石落さろや日れ松あと井戸さ
若ふ代のむあ陣〳〵あ〳〵
ふ〳〵世乃景盗人ふ頃〳〵ふ
月も為秋乱ふ止年細代ま
石蔵さろや郎寄〳〵ぬ庭の陰
細代まいうも下戸をあ〳〵ぬ魚
咲や石落梅ふ雀も寄ぬ日源
石落咲や寺ふの垂とふ〳〵ふ庭
捨ひ子の育ふ仏ふ〳〵ふ石蔵の
呉ふ〳〵ふ寄ふ〳〵ぬあ〳〵呂ま
服寺ふ粭石多〳〵石蔵の花
梅雨の高地ふもあハす細代寺
裏の花も雀ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
欲ふ粭〳〵人ふも仏〳〵ふ細代ま
耳も眠もおけふ〳〵ふ〳〵ふ細代ま
咲石落ふ見ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
細代ま淺寄ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
何ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
細代ま大和人〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
ち〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
こんふ夜ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
石蔵さろもあ〳〵ぬ日ふ〳〵ふ〳〵ふ
美寄ふ心ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
屋敷ふぬ人〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
世遠ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
年ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
細代ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
蛾ひきの遠ふ物ふ〳〵ふ〳〵ふ
ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
子持ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
篇ふけふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
石蔵乃芽の美東ふ〳〵ふ〳〵ふ
世遠も帰ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
義の日乃下ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
細代ま空世のやふ〳〵ふ〳〵ふ
桔芦の風ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
細代ま〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ

わくさ

ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ
桃乃本ハふのふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ

○

霜ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ

天十二月 星封 地、伊山 人十 根萩

撰者 金令

火府中
下毛下佐 宗〳〳
笑癡

霜月句合

相模国　春華
芝得
薫岱
保周
舟仙
春風
松う
若水
竹家
奥色
星徳
芭考
ほさき
仝
節秋
一日
みさを
根萩
其流
文山
笑癡
潮山
暁鳥
保之
三雄
武蔵国　一楽
江戸　苔川
上毛大さ
サクイ
セラ田
飯ちゃ
本庄
宗川
熊谷
下毛宇都宮
佐野
藤信
栃木
高もと
うとる
肉月
仝
竜岡
定楚
志垣
烏光
董休
侃如
折子
甲二
是聚
呂律
仝
江戸
甚翁
清二
笑語
白魚
丈橋
卓老
明良

撰者　金令

天十四点　呂律　地今宋月十二点　人麦風

天明年[illegible]十二ヶ月[illegible]入[illegible]

金令

[illegible]

[illegible]百句